

しょうけい

憧憬（強くあこがれる気持ち）

新人大会壮行会 校長挨拶

先日、とてもうれしい光景を見ました。それは、野球部がみんなでグラウンドの草取りをやっていた姿です。

顧問をしていた頃、選手から気付かされたことがあります。

強いチームは自分たちの練習環境をととても大事にします。自分の道具を大切にすることはもちろん、練習用具を整理整頓し、コートをきれいに保ち、準備運動をしっかりと行います。雑草で打球のバウンドが変わっては練習にならないし、必死にプレーをすればボールに向かって本気で飛び込みますので、石ころ一つで怪我をするからです。

草取りをしていた野球部の姿を見てそんなことを思い出し、「ああ、野球部のチーム力が1段階レベルアップしたな。」と感じ、うれしくなったのです。

ところが、こういう話をすると、強い選手になれない人は大抵、こう返してきます。

「だって誰もやらないし。時間ももったいないし。」

でも、いいですか。もし仮に、君たちがこの新人大会や中総体で優勝を目指しているとしたら。

それは「誰もやらないことを成し遂げる」「誰もたどり着かないところにたどり着く」ということなのです。

目標達成のためのこうした覚悟ができていれば、誰がしなくとも、先生の指示がなくとも、自然に行動に出るものです。

さて、新人大会は、君たちにとって初めての大きな大会です。ミスも出るし、公式戦も初めてで、右も左も分からずに緊張したまま終わってしまう。それが当たり前です。考えてみれば、どんなに強くなっても、相手の得点は自分のミスだし、自分の得点は相手のミスです。失敗がなければ点数は入りません。ミスは出て当たり前。本気で臨めば緊張して当たり前。そして、1回戦だろうが、決勝戦だろうが、県大会だろうが、1チーム以外はどこかで必ず負けるのです。そもそも、この大会で負けないのは、県大会優勝チームだけです。

では、「必ず負ける新人大会」では何が重要なのか。

君たちが「チームとしての学び」、「部としての学び」、そして「自分自身の学び」を得ることだ、と私は思います。

これまで、君たちは真面目に練習してきた。それは心から認めます。ただ、強くなるチームは、勝つために日頃の準備運動から真剣そのもの、本気そのものです。

勝つために、練習から本番と同じように本気で声を出します。絶対に「練習のための練習」はしない。ウォーミングア

ップも、試合がある日のように体の隅々まで気を配ります。
だから、練習時間がたった15分でも汗びっしょりです。

限られた時間を大事にする。試合に勝つために、日頃から自分たちの力を最大限に伸ばすことを考える。今のこの練習は何のためにやっているのかを、部員一人一人が理解している。強いチームは、常に自分たちのレベルアップを目指し、本番を想定して練習するチームなのです。

先日、野球部のみんなが、自分たちで草取りをしていたように、この大会を通して、自分たちに足りないものを学び、レベルアップしてほしい。強いチームに、そして強い選手に憧れてほしい。そして、その姿勢を、学びを、明日からの自分たちのチームに少しでも取り入れてほしい。

「あんな風になりたい。」「あのチームに勝ちたい。」そう考えながら練習に取り組んだら、必ず君たちの眼差しは普段から輝きます。

そんな目標をチームで共有できる、学びに満ちた、価値のある新人大会であってほしい。このことを強く望みます。

新人大会を終えたときの君たちの成長を、心から期待しています。頑張ってきてください！